

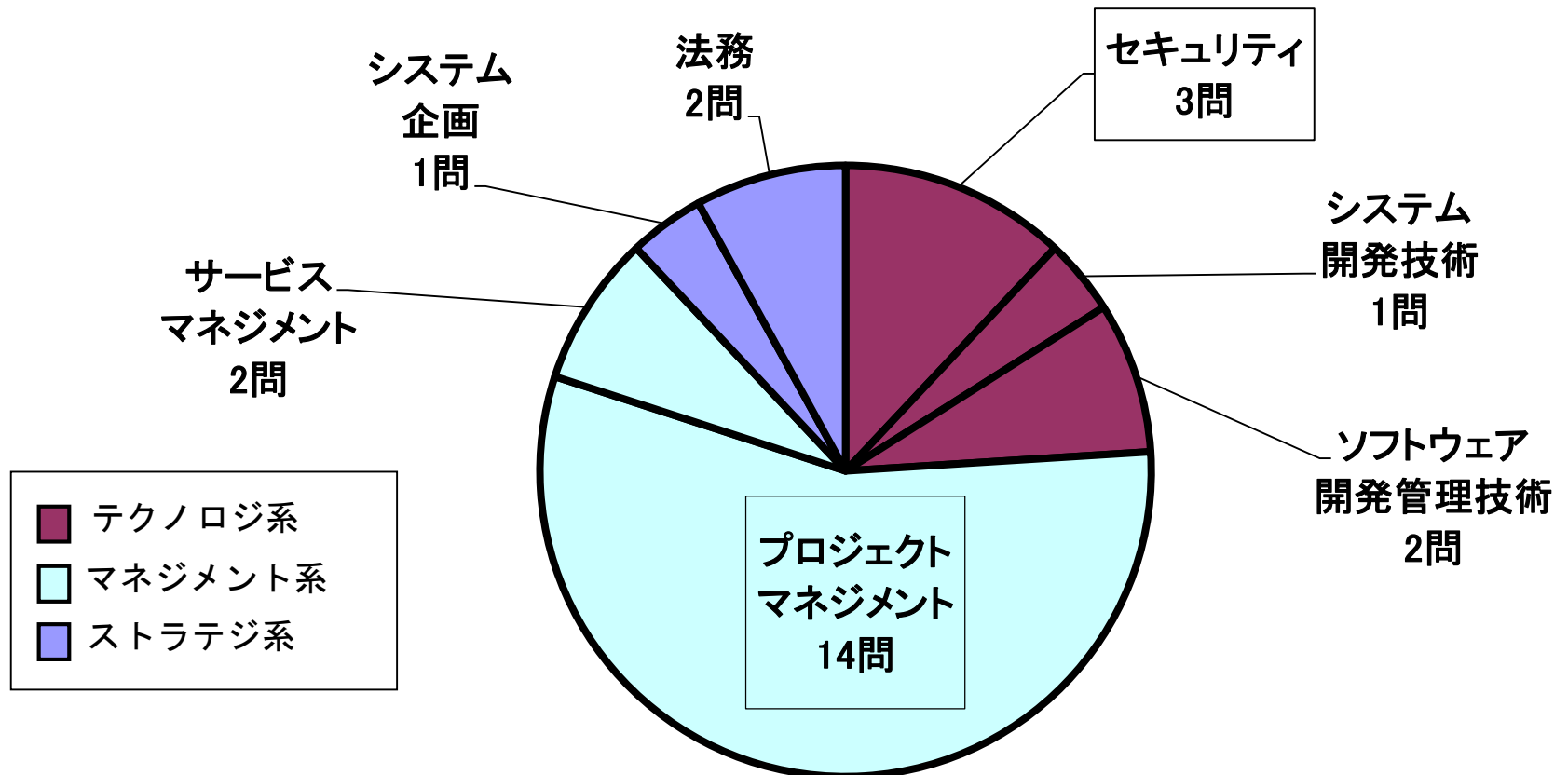
令和3年度 秋期試験 プロジェクトマネージャ(PM) 出題傾向分析

TAC株式会社



PM 午前Ⅱ 分野別出題数

- ・出題比率は前回とまったく同じ
- ・「プロジェクトマネジメント」から14問(56%)



PM 午前Ⅱ 特徴と難易度

- ・ 計算問題4問が手間のかかる問題→**時間的難易度：高**
 - 4問中2問が新作 図や条件の把握と計算が必要
 - 再出題の2問も計算量が多い
- ・ プロジェクトマネージャ試験からの再出題**15問**
 - **合格基準である6割**が再出題問題
 - 出題年度 **2回前(7問)～7回前**
- ・ 規格が出典元の問題 4問
 - JIS Q 21500 3問 PMBOK 1問

⇒ 午前Ⅱ全体としては**標準的**

PM 午前Ⅱ 新テーマとセキュリティのテーマ

- ・ **プロジェクトマネジメント分野**の新規問題
 - プレシデンスダイアグラム法(PDM)による最少所要日数計算
 - メンバ増員による増加人件費計算
 - COSMIC法
 - “リスクの特定”と“リスクの評価”が属するプロセス群
 - “コミュニケーションのマネジメント”の目的
- ・ **その他の分野の新テーマ**
 - ロバストネス分析, UXデザイン, ホイッスルブローイング
- ・ **セキュリティ分野**のテーマ いずれもPMで出題
 - 共通鍵暗号方式 AES (AESについては H31出題)
 - テンペスト攻撃の説明と対策 (H30問25)
 - DNSSECの機能 (H31問25)

PM 午後 I 特徴と難易度

- ・ 午後 I 全体
 - 3問ともプロジェクト計画の問題
 - 計画の作成方法やマネジメントプロセスの修整: 上流工程
 - 改善や改修プロジェクト
 - 元の構築プロジェクトとの対比, 構築時の問題への対応
 - 変化への迅速な対応が求められている
 - アジャイル開発を意識したプロジェクト
 - 問題文のボリュームにもあまり差はない
 - 解答数はややバラつき 問1:10 問2, 問3:7
 - 問題文から解答を導けるものが多い

難易度: 問ごとのバラツキもなく全体的に標準的

PM 午後 I 各問題の特徴と難易度(1)

- ・ 問1 新事業実現のためのプロジェクト計画
 - 課題: システムの機能やリソースの変化への迅速な適応
 - ・ プロジェクトの課題とクラウドサービス利用との関係
 - 目新しい設問 リスク対応計画の戦略の穴埋め問題
採用基準の狙いが問われた

アジャイル

標準的

- ・ 問2 業務管理システムの改善のためのプロジェクト
 - 半年ごとに効果を分析・評価して2年以内に目標達成する
 - ・ プロジェクトの構築時と改善での違いを整理した狙い, メンバ選任方法, リグレーションテストで確認する観点
 - 注意すべき設問
要求事項への追加情報, 重点的に分析評価する効果

アジャイル

標準的

PM 午後 I 各問題の特徴と難易度(2)

- ・ 問3 マルチベンダのシステム開発プロジェクト
 - 5年前に構築したシステムの改修プロジェクト
 - ・ 構築時に発生した問題を再発させないための対応狙い, 工夫点, 理由や確認内容が問われる
 - 発注者側の視点の問題⇒ベンダ側のPM向きではない
 - 解答の根拠を見つけやすい

標準的

PM 午後Ⅱ 特徴と難易度

- ・ 問1と問2で難易度に差あり
 - － 問1 経験事例を持つ者は多いがコンフリクトマネジメントを行動原則から論じる点で難易度が高いテーマ
 - － 問2 オーソドックスで、誰でも経験事例を持つテーマ
- ・ 2問とも[設問ア]の論点が多い
 - － 問1, 問2ともに3つの論点
 - ・ 「プロジェクトの特徴」だけでなく、「目標」も
 - ・ 論点を漏らさず, 800字に収まるよう, 注意が必要

難易度: 全体としては標準的

PM 午後Ⅱ 各問題の特徴と難易度

- ・ 問1 プロジェクトチーム内の**対立の解消**
 - **チームの意識を統一する目的**での「行動の基本原則」
「作業の進め方をめぐって発生した対立」
「対立の解消策」, 「行動の基本原則の改善策」
 - 都度対応ではなく, PMとして一貫した
コンフリクトマネジメントとしての論述が求められている

難しい
- ・ 問2 スケジュールの管理
 - オーソドックスなテーマ
 - ・ **スケジュールの管理の基本的な流れ**に沿った論点
スケジュールの管理の概要, 把握した進捗差異の状況や根拠,
発生原因に対する対応策と遅延の挽回策
 - ・ 事前準備がしやすい, 誰もが経験するテーマ

易しい

PM 今後の対策

・ 午前Ⅱ

- まずは重点分野「プロジェクトマネジメント」を確認
 - ・ 規格類(PMBOK, JIS Q 21500)は必ずチェック
- 過去問題演習で重要テーマや主要論点を把握
 - ・ 2回前(令和2年10月)を中心に7回(平成27年春)前まで
 - ・ 丸暗記ではなく要点の理解を
- 「セキュリティ」は重点分野だが**技術レベルは3**
 - ・ PMと応用情報の過去問題で学習を

・ PMBOK 第7版がリリース

- プロジェクトマネージャ試験のシラバスは **JIS Q 21500**に基づく
JIS Q 21500が、第7版を反映する改訂→**シラバス改訂**→**試験に出題**
- **知識エリア, マネジメントプロセス廃止**
⇒7つのプロジェクトパフォーマンス領域
第4章「モデル, 方法, 作成物」 知識と技法, アウトプットがまとめられている

PM 今後の対策

・ 午後 I

- プロジェクトマネジメント学習後の過去問演習
問題文で説明されているプロジェクトの特徴や目標を踏まえ、その状況でのPMとしてふさわしい対応
- 主要テーマについて過去問題演習を繰り返し、基本的な考えやノウハウを吸収：リスク、品質、パッケージ導入、契約
- プロジェクトの上流工程の出題が増加
変化を前提とするプロジェクト
アジャイル開発 基本的事項の学習が必要

PM 今後の対策

・ 午後Ⅱ

- プロジェクト事例を事前に用意する
 - ・ プロジェクトの特徴, マネジメントの基本的な流れ, 発生した問題点, 対応策, 評価, 今後の改善点 など
 - ・ 想定されるマネジメント分野について
 - 品質, コスト, ステークホルダ, スコープ, コミュニケーション, リスク, スケジュール など
- 用意した事例を論点に応じてカスタマイズする練習を
 - ・ 上手にカスタマイズするためには,
 - マネジメント分野ごとの基本的な流れを理解しておく
 - マネジメント分野ごとの手法やキーワードを整理しておく
 - ・ 設問要求に合った答えになっているかを必ずチェックする